

苫小牧市都市計画マスタープランにおける

# 地域別構想について

## 目 次

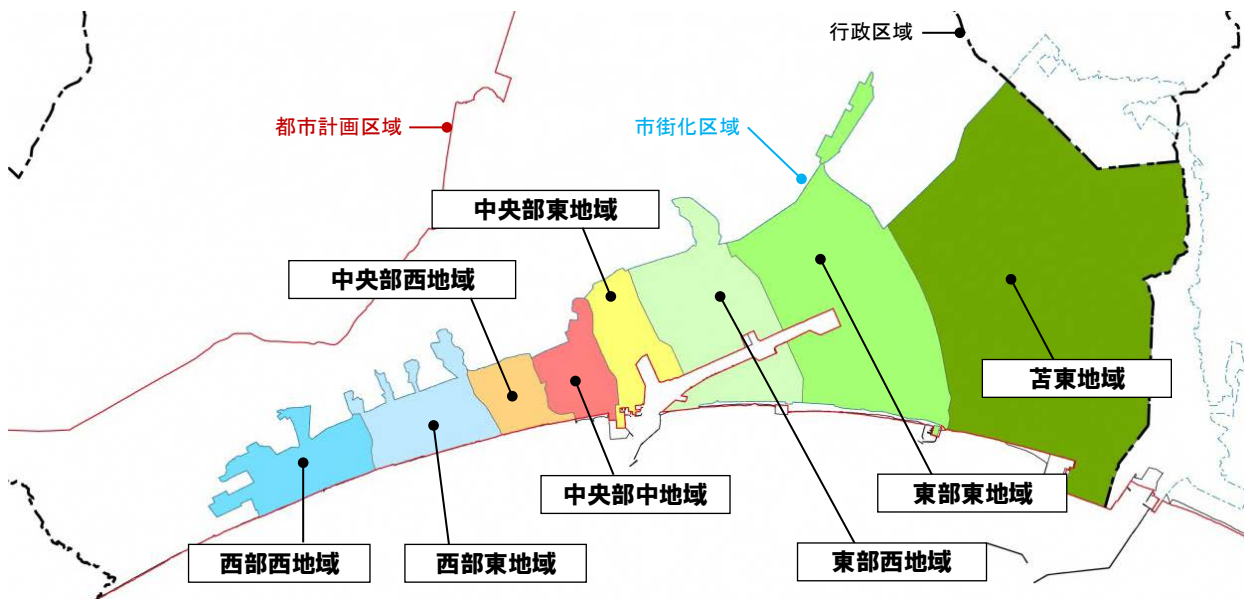
1	地域別構想について.....	1
2	西部西地域.....	2
3	西部東地域.....	8
4	中央部西地域.....	14
5	中央部中地域.....	20
6	中央部東地域.....	27
7	東部西地域.....	34
8	東部東地域.....	40
9	苫東地域.....	47

# 1 地域別構想について

## (1) 地域区分

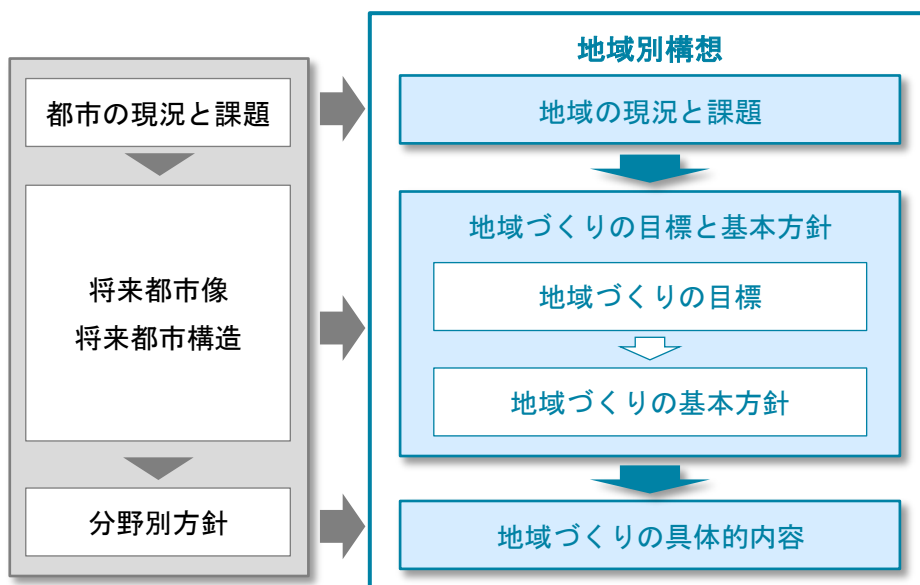
地域別構想は、苫小牧市の市街地を全部で8地域に区分し、苫小牧市全体の将来都市構造、分野別方針を踏まえたうえで、身近な視点から地域ごとに将来像と都市計画の整備方針を定めたものです。

### 【地域区分】



## (2) 地域別構想の構成

各地域別構想の構成は、「地域の現況と課題」「地域づくりの目標と基本方針」「地域づくりの具体的内容」の3つで構成されています。



## 2 西部西地域

### (1) 地域の現況と課題

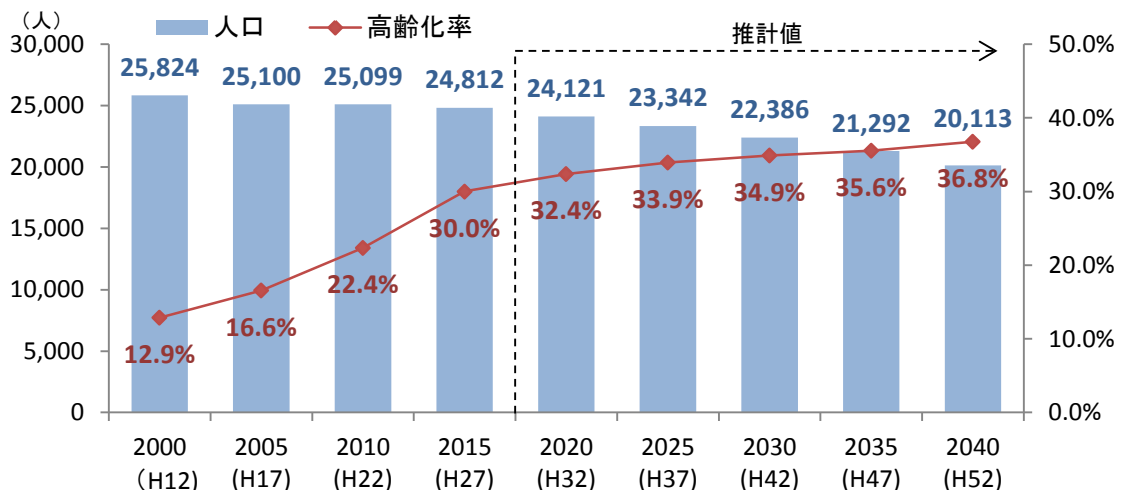
#### ①地域の成り立ち

西部西地域は、苫小牧市の市街地の中でも最も西側に位置する地域で、錦岡地区は 1960 年代からの公営住宅団地の建設・整備に伴って人口が増加し、1970 年代後半以降、土地区画整理事業などによって大規模な宅地造成が進められ、良好な住宅市街地が形成されてきました。

#### ②西部西地域の現況

##### 【人口特性】

- 人口は微減傾向で、減少割合は大きくなっています。
- 高齢化率は 30.0%と、全市（25.8%）よりも若干高齢化が進行。今後も高齢化の進行が予測されます。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

##### 【土地利用】

- 双葉三条通(道道苫小牧環状線)沿いに商業施設、大学が立地し、その他は住宅が大半を占め、小中学校が配置されています。
- 老朽建物割合は 53.4%と市全体(54.8%)より低くなっています。
- 住居系未利用宅地の箇所数が最も多くなっています。(未分譲の宅地が多く残っています。)

##### 【都市機能の立地状況】

- 1998年(平成10年)に苫小牧駒澤大学が開学し、苫小牧工業高等専門学校とともに、高等教育機関が立地する市内唯一の地域となっています。(苫小牧駒澤大学は、平成30年度から学校法人京都育英館が経営予定。)

## 地域別構想

- 双葉三条通（道道苦小牧環状線）沿いに商業施設、大学、コミュニティ施設が立地しており、他の地域と比べると、下表に示す全ての種類の施設が立地している唯一の地域となっていますが、これらは地域内に分散している状況です。
- 保育所・幼稚園、認定子ども園などの教育施設は、他地域に比べると多くありませんが、商業施設や診療所など、日常生活に必要な施設は概ね立地しています。

### 《主な施設立地状況（H29.7時点）》

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
1	1	8	10	3	2	1	2	1	1	1	1	3	7

### 【交通】

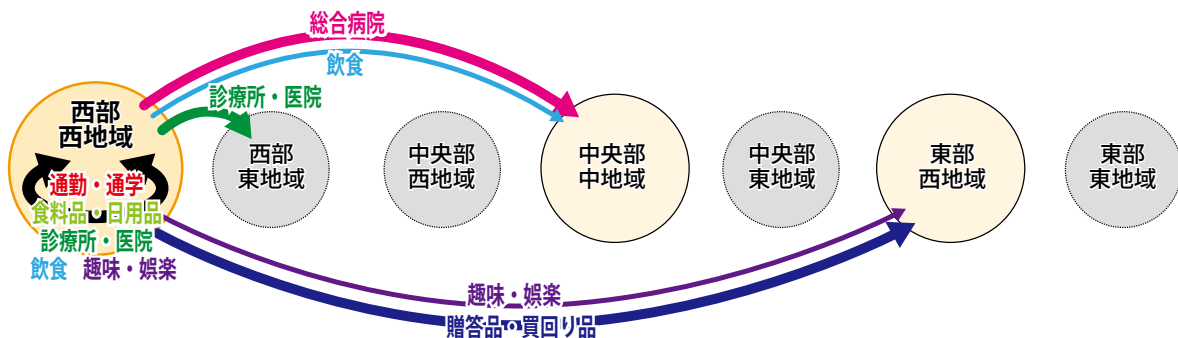
- 錦岡駅が立地しています。
- 道南バスの錦西営業所があり、バスの発着拠点となっています。
- 道央自動車道の苦小牧西 I.C. が立地しています。

### 【災害リスク】

- 海岸線から双葉三条通（道道苦小牧環状線）周辺まで、津波浸水想定区域に含まれています。

### 【地域の生活行動・居住地選択理由（市民アンケート調査結果より）】

- 通勤・通学は、地域内を中心としながら、他地域にも分散する傾向にあります。
- 食料品・日用品の買い物は地域内、贈答品・買回り品の買い物は東部西地域が中心となっています。
- 診療所・医院への通院は西部東地域と地域内、総合病院への通院は中央部中地域が多くなっています。
- 飲食は地域内と中央部中地域、趣味・娯楽は地域内と東部西地域が多くなっています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活環境の良さ（閑静など）が最も多くなっています。



### ③西部西地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の西部西地域における地域づくりの課題は、次のように整理できます。

- 地域内に分散した生活利便機能の集約化による生活拠点の形成
- 文教エリアとして大学・苫小牧高専と地域の連携
- 閑静で良好な住環境を維持しながら、高齢化に対応した安心して暮らせる環境の実現
- 未利用地を活用した良好な住環境の形成
- 双葉三条通（道道苫小牧環状線）以南の地域における津波防災対策の実施

## (2)西部西地域における地域づくりの目標と基本方針

### 【地域づくりの目標】

#### 多世代コミュニティと自然との共生を目指した豊かな暮らしの実現

高等教育機関が立地している地域特性を活かし、学生と地域住民が参加する多世代コミュニティの形成と、自然との共生を目指した田園都市型住環境への実現を図りながら、地域住民がいきいきと生活でき、安心・安全に生活できる環境を形成します。



### 【地域づくりの基本方針】

生活  
拠点

多世代が活用する利便性の高い生活拠点の形成

骨太  
生活軸

生活に密着した骨太の生活軸の形成

田園都市  
型住環境

自然との共生を目指した田園都市型の住環境の形成

防災

安全・安心な暮らしを守る防災・減災対策の実施

## (3)地域づくりの具体的内容

生活  
拠点

### 多世代が活用する利便性の高い生活拠点の形成

#### 【土地利用】

- 明徳町周辺の徒歩圏内に生活サービスなどの複合機能が集積した一体的な拠点形成
  - 商業、医療・福祉、高齢者支援、コミュニティ・交流機能など生活利便機能
  - 公共交通（バスなど）の乗り換え拠点
  - サービス付き高齢者向け住宅や若者向け民間賃貸住宅
  - 地域住民が立ち寄り、集まりやすいオープンスペース
- 行政・地域・高等教育機関の連携による、学生や地域住民が参加する多世代コミュニティの形成など、地域の課題解決に向けた実践の場の形成

#### 【交通ネットワーク】

- 生活拠点におけるバリアフリー化の推進

## 生活に密着した骨太の生活軸の形成

### 【土地利用】

- 生活軸である双葉三条通（道道苫小牧環状線）沿道における、身近な商業、医療・福祉など、背後の住環境に配慮した生活利便機能の誘導

### 【交通ネットワーク】

- バスによる基幹的公共交通網の形成
- バス待合などの利用環境の改善によるバス利用の促進
- 地域内北部丘陵地における日常生活の移動手段の確保
- 東西の自動車交通の混雑緩和や、地域間の回遊性向上に向けた、自転車ネットワークの形成
- 交通の分化促進（広域交通を都市骨格軸に・生活交通を生活軸に）

## 自然との共生を目指した田園型の住環境の形成

### 【土地利用】

- 鉄道北側における、空き地や市有地をコミュニティガーデンや農園、広場などに活用するなど、自然との共生を目指したゆとりある田園都市型住宅地の実現と、閑静な住環境や子育て、生活環境の維持・形成
- 錦岡駅周辺における、周囲との均整のとれた住環境の保全に資する土地利用の転換
- 長期的な未利用地における、将来の土地利用構想を勘案した市街化区域の縮小
- 市民農園を活用した交流機能の強化

### 【みどりと水辺空間】

- 錦多峰川、錦岡川における河川敷の緑化や散策路の整備など、水とみどりが一体となった親水空間と歩行者動線の形成
- 錦大沼公園における豊かな自然環境の保全と観光・交流機能の強化
- 錦大沼公園や北星公園などにおける、官民が連携した公園管理やパークマネジメントの促進

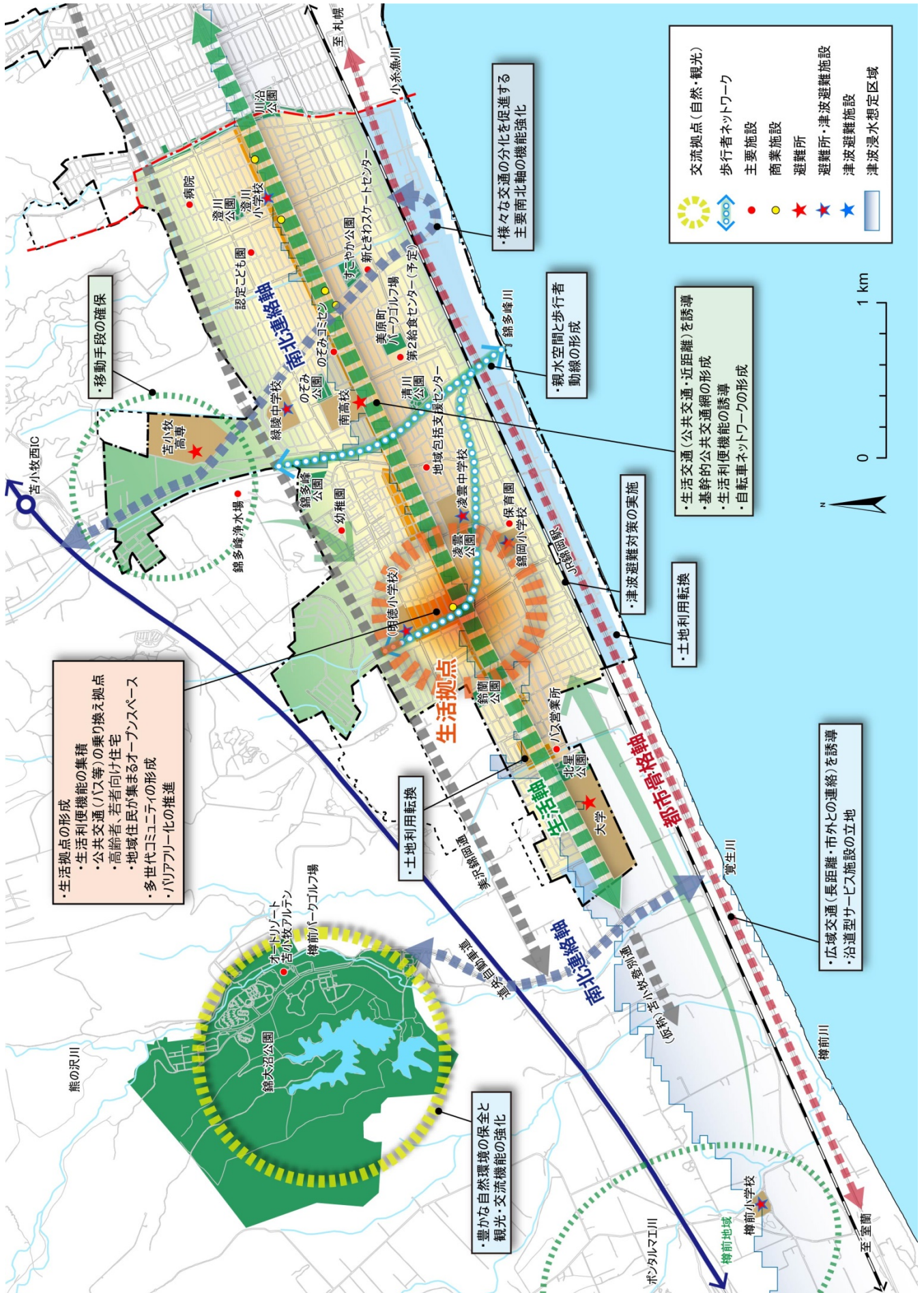
## 安全・安心な暮らしを守る防災・減災対策の実施

### 【土地利用】

- 都市骨格軸である苫小牧白老通（国道 36 号）沿道における、津波・高潮などの災害リスクを踏まえた、市街地端部まで連続して広域交通に対応する適切な規模の沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導
- 防災・減災対策などによる、災害に強い市街地構造の形成

### 【交通ネットワーク／都市防災】

- 災害時における避難経路の確保に向けた、南北連絡軸である苫小牧西インター通（道道樽前錦岡線）の機能強化
- 官民が連携した津波避難施設の確保



**生活拠点の形成**

- 生活利便機能の集積
- 公共交通（バス等）の乗り換え拠点
- 高齢者、若者向け住宅
- 地域住民が集まるオープンスペース
- 多世代コミュニティの形成
- バリアフリー化の推進

**移動手段の確保**

**豊かな自然環境の保全と  
観光・交流機能の強化**

**様々な交通の分化を促進する  
主要南北軸の機能強化**

**親水空間と歩行者  
動線の形成**

**生活交通（公共交通・近距離）を誘導  
・基幹的公共交通網の形成  
・生活利便機能の誘導  
・自転車ネットワークの形成**

**交換拠点（自然・観光）**  
 歩行者ネットワーク  
 主要施設  
 商業施設  
 避難所  
 避難所・津波避難施設  
 津波避難施設  
 津波浸水想定区域

**広域交通（長距離・市外との連絡）を誘導  
・沿道型サービス施設の立地**

**津波避難対策の実施**

**土地利用転換**

**土地利用転換**



### 3 西部東地域

#### (1) 地域の現況と課題

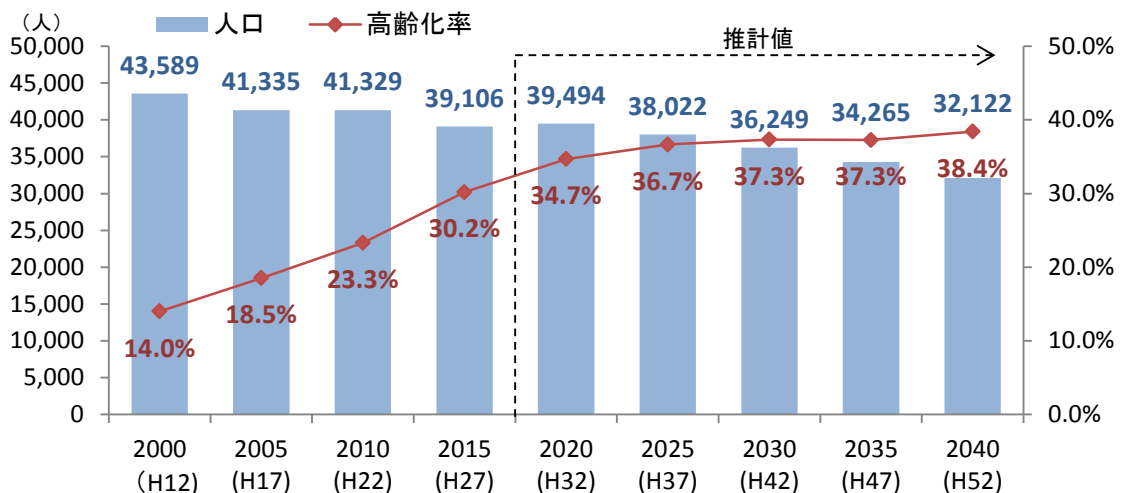
##### ①地域の成り立ち

西部東地域は、小糸魚川、小泉の沢川、豊木川、苫小牧川など多数の河川が流れている地域となっています。鉄道より北側は、1960年代後半に糸井団地が計画的に開発・整備され、1980年代にかけて土地区画整理事業などによって住宅地整備された地区となっています。

##### ②西部東地域の現況

###### 【人口特性】

- 人口規模は市内で最も大きいものの、微減傾向となっており、他の地域に比べて減少割合が大きくなっています。
- 高齢化率は30.2%と、全市(25.8%)よりも若干高齢化が進行しており、今後も引き続き高齢化が進むものと予測されます。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

###### 【土地利用】

- 苫小牧白老通(国道36号)沿いには主に工業施設・業務施設が、双葉三条通(道道苫小牧環状線)沿いには沿道型の商業施設が立地しており、その他は住居系の土地利用となっています。
- 老朽建物割合は59.1%と市全体(54.8%)より高くなっています。

###### 【都市機能の立地状況】

- 日新町に公共施設と商業施設(専門店)が多く立地しています。
- 他の地域と比べると、診療所、保育所、幼稚園が最も多く立地しており、商業施設も西部東地域に次いで多く立地しています。

《施設立地状況(H29.7時点)》

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
1	1	22	17	5	4	1	-	4	5	-	4	2	13

【交通】

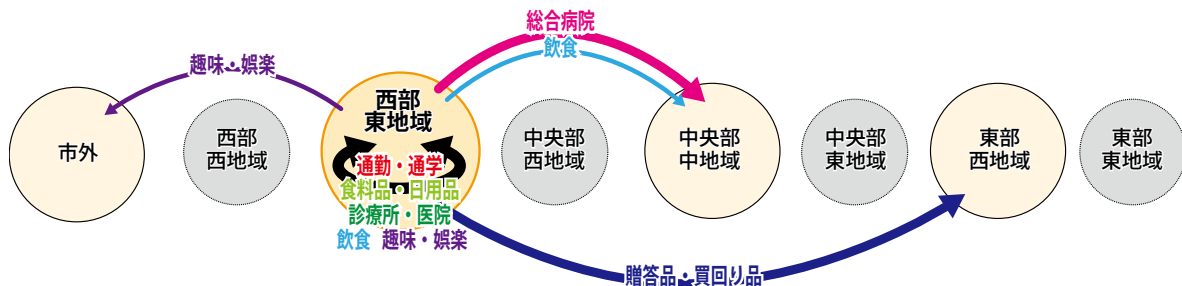
- 系井駅が立地しています。
- 双葉三条通（道道苦小牧環状線）に多数のバス路線が運行されています。
- 双葉三条通（道道苦小牧環状線）沿いに歩行者専用道の「木もれびの道」が整備されています。

【災害リスク】

- 西は双葉三条通（道道苦小牧環状線）周辺まで、東は鉄道周辺まで、津波浸水想定区域に含まれています。

【地域の生活行動・居住地選択理由（市民アンケート調査結果より）】

- 通勤・通学は、地域内を中心としながら、他地域にも分散する傾向にあります。
- 食料品・日用品の買い物は地域内、贈答品・買回り品の買い物は東部西地域が中心となっています。
- 診療所・医院への通院は地域内、総合病院への通院は中央部中地域が中心となっています。
- 飲食は地域内と中央部中地域、趣味・娯楽は地域内と市外が多くなっています。
- これらの生活行動に伴う地域内外の移動にあたっては、他の地域に比べて、公共交通の利用割合が比較的高くなっています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活環境の良さ（閑静など）と生活利便性の良さが多くなっています。



### ③西部東地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の西部東地域における地域づくりの課題は、次のように整理できます。

- 生活利便機能のさらなる集積による生活拠点の機能強化
- 今後の高齢化に備えた、安心して暮らせる環境の実現
- 閑静な住環境を維持しながら、老朽化を迎えた住宅の更新や高齢者世帯と子育て世帯の住み替え、中古住宅の流通の促進
- 市民・行政・企業の協働による、計画的に整備された道路・公園などを活用した住環境の維持・向上
- 双葉三条通（道道苦小牧環状線）以南における津波防災対策、地域内の河川における洪水対策の実施

## (2)西部東地域における地域づくりの目標と基本方針

【地域づくりの目標】

### みどり豊かな住環境と生活利便性を併せ持つ住みよい地域づくり

計画的に整備された、みどり豊かで良好な住宅市街地の環境と生活利便機能が集積している特徴を活かし、地域の更なる成熟に向けて、今後の高齢化に備えた活発なコミュニティの形成を図るとともに、みどり豊かな環境を積極的に保全・育成し、住みよい地域づくりを目指します。



【地域づくりの基本方針】

生活  
拠点

更なる機能集積による利便性の高い生活拠点の強化

骨太  
生活軸

生活に密着した骨太の生活軸の形成

ゆとり  
住環境

自然を身近に感じる閑静でゆとりある住環境の形成

防災

安全・安心な暮らしを守る防災・減災対策の実施

## (3)地域づくりの具体的内容

生活  
拠点

### 更なる機能集積による利便性の高い生活拠点の強化

#### 【土地利用・その他都市施設】

- 日新町周辺の徒歩圏内に、既存の機能集積を活かした生活拠点を形成
  - 商業、医療・福祉、コミュニティ・交流機能など、日常生活を支える生活利便機能のさらなる集積
  - 公共交通（バスなど）の乗り換え拠点の整備
  - 公営住宅の計画的な維持・更新
  - サービス付き高齢者向け住宅や若者向けの民間賃貸住宅の整備

#### 【交通ネットワーク】

- 生活拠点におけるバリアフリー化の推進

#### 【みどりと水辺空間】

- 学校、商業施設、公園などの主要施設における、花や緑のまちづくりの実践など、適切な維持管理・活用の推進

骨太  
生活軸

## 生活に密着した骨太の生活軸の形成

### 【土地利用】

- 生活軸である双葉三条通（道道苦小牧環状線）沿道における、身近な商業、医療・福祉など、背後の住環境に配慮した生活利便機能の誘導
- 鉄南地域における身近な生活を支えるための、三条通沿道（光洋町）へ生活利便機能の誘導を図る地域軸の形成

### 【交通ネットワーク】

- バスによる基幹的な公共交通網の形成
- バス待合などの利用環境の改善によるバス利用の促進
- はまなす町、宮の森町、桜坂町、有珠の沢町における、日常生活の移動手段の確保
- 生活軸における、東西の自動車交通の混雑緩和に資する自転車ネットワークの形成
- 交通の分化促進（広域交通を都市骨格軸に・生活交通を生活軸に）

ゆとり  
住環境

## 自然を身近に感じる閑静でゆとりある住環境の形成

### 【土地利用】

- 糸井駅南側や都市骨格軸の背後地における、住居系の土地利用への転換・純化による住環境の保全
- 閑静な住環境や子育て、生活環境の維持・向上と、買い物環境などの維持
- 長期的な未利用地における、将来の土地利用構想を勘案した市街化区域の縮小
- 空き地や空き家の適正な管理など、ゆとりある住環境や景観の維持・形成

### 【みどりと水辺空間】

- 川沿公園や苦小牧川における、河川敷の緑化や散策路の整備など、親水空間と歩行者動線の形成
- 「木もれびの道」や公園、河川空間など、地域住民やコミュニティによる維持・管理活動の促進と、花と緑豊かな歩行者動線軸の形成

防災

## 安全・安心な暮らしを守る防災・減災対策の実施

### 【土地利用】

- 都市骨格軸である苦小牧白老通（国道 36 号）沿道における、津波・高潮などの災害リスクを踏まえた、広域交通に対応する適切な規模の沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導
- 防災・減災対策などによる、災害に強い市街地構造の形成

### 【交通ネットワーク／都市防災】

- 災害時における避難経路の確保に向けて、南北連絡軸である糸井西通と糸井東通（糸井東大通）の機能強化
- 鉄南地域における避難経路や津波避難施設の確保など、津波避難対策の推進



## 4 中央部西地域

### (1) 地域の現況と課題

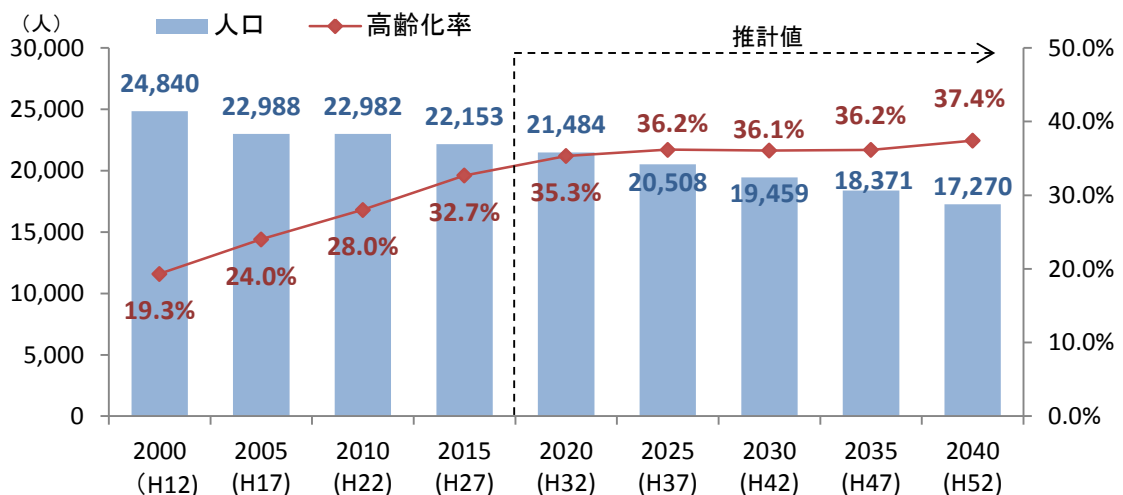
#### ①地域の成り立ち

中央部西地域における鉄道南側は、1950年代後半に青葉地区において公営住宅団地が整備され、1970年代から高層住宅の公営住宅団地と一般住宅地が整備されました。鉄道北側については、1960年代から、土地区画整理事業を中心に計画的な住宅地が整備されました。

#### ②中央部西地域の現況

##### 【人口特性】

- 人口は微減傾向で、他の地域に比べ最も減少割合が高くなっています。
- 高齢化率は32.7%と他の地域に比べ最も高く、今後も高齢化の進行が予測されています。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

##### 【土地利用】

- 鉄道南側の一部に製紙工場が立地しているほか、苫小牧白老通(国道36号)・双葉三条通(道道苫小牧環状線)・三条通沿いに商業施設、それ以外の大半が住居系の土地利用となっています。
- 老朽建物割合は64.5%と他の地域に比べ最も高くなっています。
- 未利用宅地の箇所数・面積は少なく、1箇所当たりの面積も小さくなっています。

##### 【都市機能の立地状況】

- 苫小牧白老通(国道36号)、双葉三条通(道道苫小牧環状線)、三条通の幹線道路沿いには小規模な商業施設が立地しており、大型商業施設(食品スーパー)の立地もみられます。
- 行政施設と高等専門学校・大学以外は、どの施設も立地しており、特に病院は中央部中地域に次いで多く立地しています。

《施設立地状況(H29.7時点)》

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
-	3	13	12	3	1	1	-	4	2	2	1	1	5

【交通】

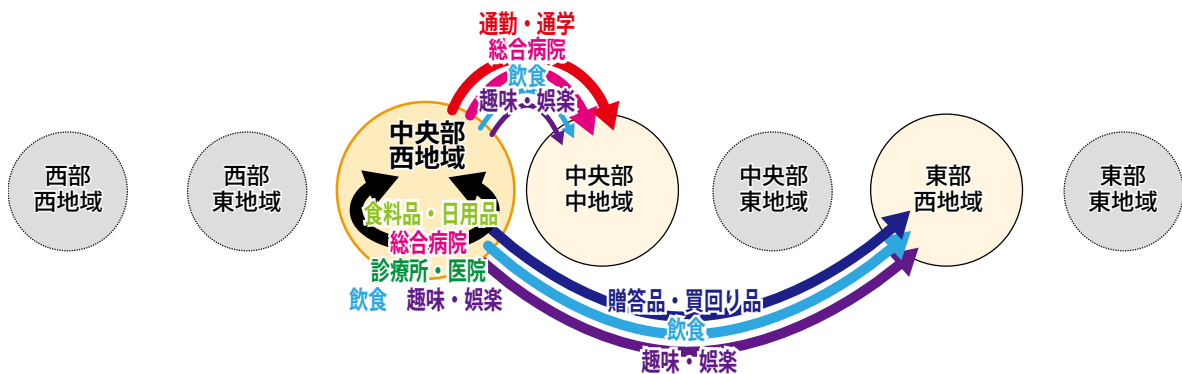
- 青葉駅が立地しています。
- 苫小牧白老通（国道 36 号）、双葉三条通（道道苫小牧環状線）と西町大通（大成大通）に、多数の路線バスが運行されています。

【災害リスク】

- 海岸線から鉄道南側まで、津波浸水想定区域に含まれています。
- 苫小牧川の洪水により、地域の大半が浸水想定区域に含まれています。

【地域の生活行動・居住地選択理由（市民アンケート調査結果より）】

- 通勤・通学は、隣接する中央部中地域が最も多くなっています。
- 食料品・日用品の買い物は地域内、贈答品・買回り品の買い物は東部西地域が中心となっています。
- 診療所・医院への通院は地域内、総合病院への通院は中央部中地域と地域内が多くなっています。
- 飲食と趣味・娯楽は、東部西地域と中央部中地域、それに地域内が多くなっています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活利便性と職場（学校）からの近さが多くなっています。





### ③中央部西地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の中央部西地域における地域づくりの課題は、次のように整理できます。

- 隣接する都市拠点および生活拠点へのアクセス強化
- 鉄北・鉄南地域における身近な生活を支える生活利便機能の確保
- 住み慣れた地域で安心して暮らせるための移動手段の充実
- 老朽化を迎えた住宅の更新や高齢者世帯と子育て世帯の住み替え、中古住宅の流通の促進
- 津波や洪水の災害に対応した防災・減災対策の実施

## (2)中央部西地域における地域づくりの目標と基本方針

【地域づくりの目標】

### 安全・安心な暮らしを守り、次世代へつなぐまちづくり

地域住民が住み慣れた地域で住み続けられるよう、身近な生活利便機能の確保や地域の移動手段の充実を図りながら、安全・安心に暮らせる地域づくりを行うとともに、老朽家屋の更新や交流機能の強化により、次世代を見据えた地域づくりを目指します。



【地域づくりの基本方針】

機能  
誘導

地域の生活を守る  
生活利便機能の誘導

拠点  
アクセス

都市拠点・生活拠点への  
アクセス向上

市街地  
更新

利便性を活かした  
市街地更新の推進

防災

安全・安心な暮らしを守る  
防災対策の実施

## (3)地域づくりの具体的内容

機能  
誘導

### 地域の生活を守る生活利便機能の誘導

#### 【土地利用】

- 都市骨格軸である苫小牧白老通(国道36号)沿道における、背後の住環境を踏まえた、広域交通に対応する沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導
- 生活軸である双葉三条通(道道苫小牧環状線)沿道における、身近な商業、医療・福祉など、背後の住環境に配慮した生活利便機能の誘導
- 鉄南地域における身近な生活を支えるための、三条通沿道へ生活利便機能の誘導を図る地域軸の形成

#### 【みどりと水辺空間】

- 苫小牧川における親水空間と歩行者動線の形成(河川敷の緑化や散策路の整備など)
- 北光町未来の森公園の交流機能(農園など)の強化

拠点  
アクセス

## 都市拠点・生活拠点へのアクセス向上

### 【交通ネットワーク】

- 隣接する都市拠点や生活拠点（西部東地域）へのアクセス向上に向けた、バスなどの公共交通の維持・充実
- 都市拠点から西部生活軸への動線を担う、主要南北連絡軸である西町大通（大成大通）における機能強化、景観に配慮した緑化の推進
- 東西の自動車交通の混雑緩和に資する生活軸における自転車ネットワークの形成

市街地  
更新

## 利便性を活かした市街地更新の推進

### 【土地利用】

- 北光町、弥生町、矢代町などにおける、中心市街地に近接する利便性を活かした戸建て住宅を中心とする良好な住宅市街地の形成
- 都市軸間の住宅地における住・商・工の土地利用純化や、適切な距離を保つことによる良好な住環境の保全
- 工業地における緩衝帯など、周辺住宅地と適切な距離を保つことによる機能の維持・向上
- 危険な老朽家屋の除却や住宅リフォームの推進、中古不動産の流通促進などによる、住宅ストックの有効活用
- 高齢者世帯と若者世帯の住替えの推進

### 【その他の都市施設】

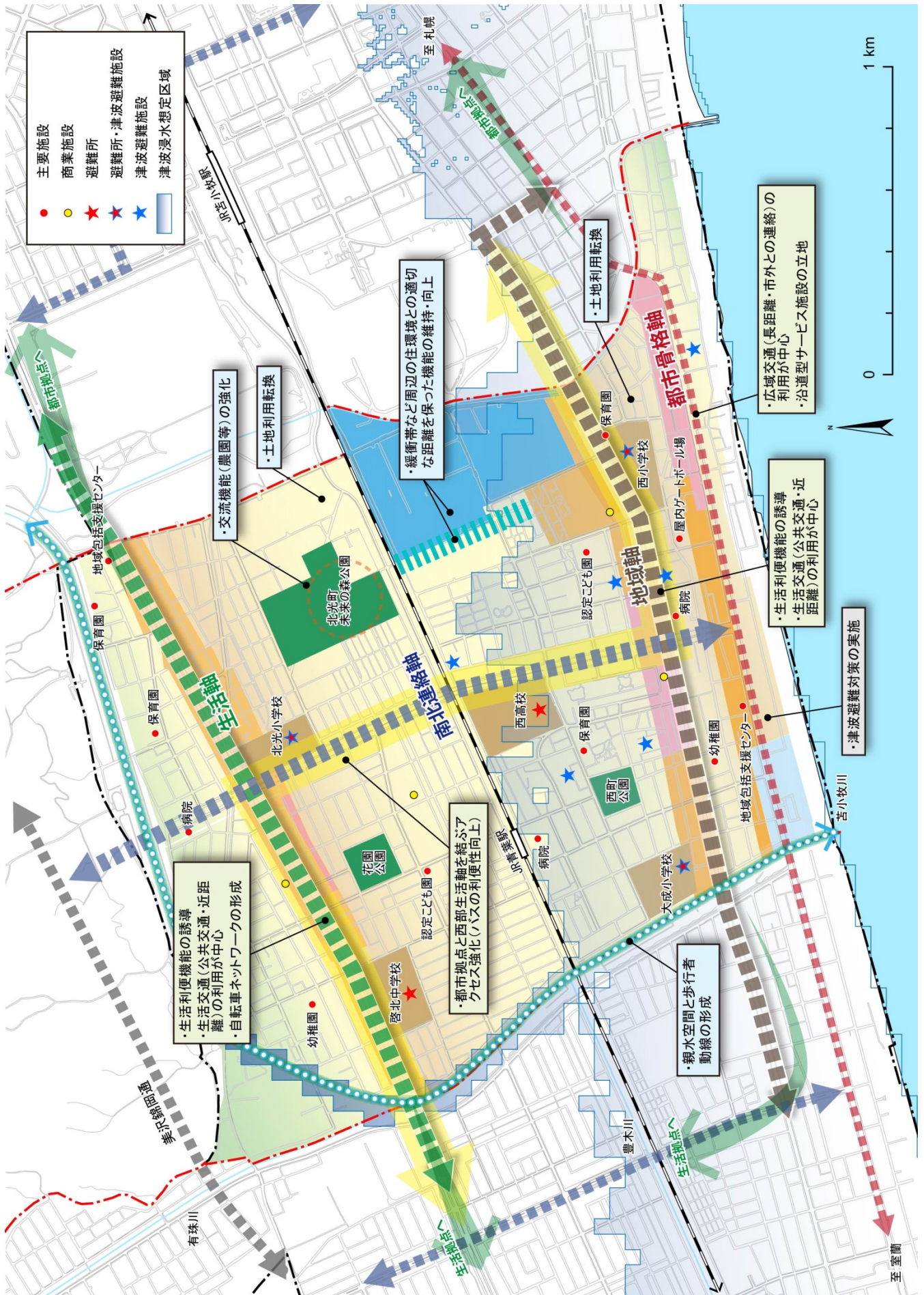
- 公営住宅の計画的な維持・更新

防災

## 安全・安心な暮らしを守る防災・減災対策の実施

### 【交通ネットワーク／都市防災】

- 災害時における避難経路の確保に向けて、南北連絡軸である西町大通（大成大通）の機能強化
- 鉄南地域における津波避難施設の確保など、津波避難対策の実施



# 5 中央部中地域

## (1) 地域の現況と課題

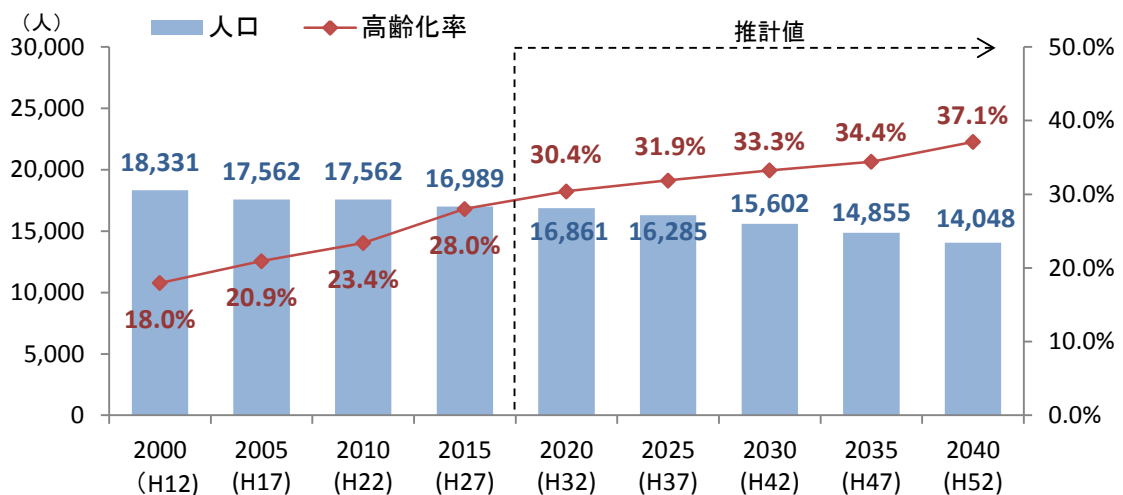
### ①地域の成り立ち

中央部中地域は、苫小牧の都心となる地域で、住宅地の多くは 1950 年代後半に土地区画整理事業によって整備された地域です。苫小牧駅周辺は、1970 年代後半に一部で市街地再開発事業により整備されましたが、近年は空き店舗などが増加しています。

### ②中央部中地域の現況

#### 【人口特性】

- 人口は微減傾向で、減少割合は回復傾向となっています。
- 高齢化率は 28.0%と、全市（25.8%）よりも若干高齢化が進行しており、今後も高齢化の進行が予測されます。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

#### 【土地利用】

- 商業地が苫小牧駅周辺と幹線道路沿いに形成されており、製紙工場のほか臨海部に工業地を形成、その他は住居系の土地利用がなされています。
- 老朽建物割合は 64.0%と他の地域に比べ 2 番目に高くなっています。
- 未利用宅地の箇所数・面積が最も少ないですが、青空駐車場の箇所数・面積が最も多くなっています。

#### 【都市機能の立地状況】

- 苫小牧駅周辺から苫小牧白老通（国道 36 号）にかけて商業施設、共同住宅などが立地し、苫小牧白老通（国道 36 号）以南には市役所などの公共公益施設が集積しています。
- 災害拠点病院に指定されている苫小牧市立病院・王子総合病院を含め、病院および歯科診療所は市内で最も多く立地しています。

## 地域別構想

- 双葉三条通（道道苦小牧環状線）以北の緑ヶ丘公園には、多くの運動施設が立地しており、文化・交流施設も最も多く立地しています。
- 観光資源として、緑ヶ丘公園、市民文化公園などの公園や、苦小牧市科学センターなどの文化施設、ふるさと海岸などがあります。
- 診療所や商業施設、保育所や幼稚園など、日常生活に必要な施設が立地しています。

### 《施設立地状況（H29.7時点）》

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
2	4	14	18	3	2	2	-	2	3	-	19*	1	5

※うち6施設は市街化調整区域に立地

## 【交通】

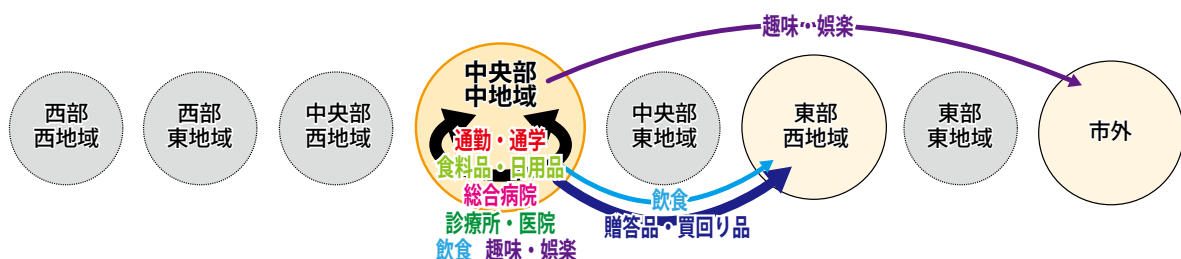
- 苦小牧駅（特急停車）が立地しています。
- 苦小牧中央 I.C.（仮称）の整備が進められています。（平成 32 年度完成予定）
- 「支笏湖通（国道 276 号）の緑町～新中野新町」の区間、「支笏湖通（国道 276 号）×双葉三条通（道道苦小牧環状線）」「苦小牧白老通（国道 36 号）×駅前中央通（道道苦小牧停車場線）」の箇所での渋滞が発生しています。

## 【災害リスク】

- 双葉三条通（道道苦小牧環状線）～苦小牧白老通（国道 36 号）周辺まで、津波浸水想定区域に含まれています。
- 苦小牧川の洪水により、地域の大半が浸水想定区域に含まれています。

## 【地域の生活行動・居住地選択理由（市民アンケート調査より）】

- 通勤・通学、食料品・日用品の買い物、通院、飲食、趣味・娯楽は、地域内が最も多くなっています。その他、飲食は東部西地域、趣味・娯楽は市外も多くなっています。
- 贈答品・買回り品の買い物は、東部西地域が多くなっています。
- 総合病院への通院や飲食、趣味・娯楽は他の地域からの移動先としても多くなっています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活利便性と交通利便性が多くなっています。



**【中心市街地の対策(市民アンケート調査結果より)】**

- 中心市街地の活性化のために取るべき対策については、「市の最重要課題として各種事業や取組みを集中的に行い中心市街地の魅力を向上させる」という意見が最も多くなっていますが、「中心市街地は重要であるが、他の事業とのバランスを考え、施策の進め方を再考すべき」という意見も少なくありません。
- 中心市街地に必要な機能は、商業施設が最も多く、次いで娯楽施設、飲食店となっています。

**③中央部中地域の主な課題**

以上を踏まえ、今後の中央部中地域における地域づくりの課題は、次のように整理できます。

- 苫小牧の産業・生活を支える様々な都市機能を集積した都市拠点の形成
- 中心市街地の魅力アップと空き地・空き店舗の活用
- 苫小牧駅の広域交通結節点の機能強化と苫小牧の顔となる空間づくり
- 苫小牧中央 I.C. (仮称) と市街地を結ぶ円滑なアクセス動線の確保
- 防災対策の実施による安心・安全な中心市街地の確保

## (2)中央部中地域における地域づくりの目標と基本方針

【地域づくりの目標】

### 苫小牧の顔として誇れる都市拠点の形成

苫小牧の産業と生活を支える中心的な拠点として、商店会同士や市民・企業・行政が連携した協働体制のもと、様々な都市機能の集積を図るとともに、市民が訪れたいくなる魅力を持った都市空間を形成することで、都市に住む利便性と豊かさを感じることができ、苫小牧の顔として誇れる都市拠点を形成することを目指します。



【地域づくりの基本方針】

都市  
拠点

苫小牧をけん引する  
都市拠点の形成

都市骨格  
軸の強化

苫小牧の顔となる  
都市骨格軸の強化

交流機  
能強化

苫小牧の魅力を高める  
交流機能の強化

防災

災害対応の中核部に  
おける防災・減災対策の実施

## (3)地域づくりの具体的内容

都市  
拠点

### 苫小牧をけん引する都市拠点の形成

【土地利用】

- 産業や生活を支える都市機能の再編・集積による都市拠点の形成（商業・業務、ビジネス交流、観光・文化交流、宿泊、医療・福祉、子育て支援、高等教育機能など）と雇用の創出
- 公共施設の集約化による新たな文化交流拠点（市民ホール）の整備
- 苫小牧の顔にふさわしい、人を中心としたパブリックスペースの創出
- 商店会同士や市民・企業・行政が連携したエリアマネジメントの推進
- 苫小牧の魅力を味わうことのできる、魅力ある個店の創出と集積
- 都市拠点周辺の住宅地における、土地利用の純化による良好な住環境の形成と拠点に隣接する利便性を活かした都心居住の推進
- 未利用地や空き店舗などを活用した子育て支援環境の推進
- 安定した雇用を支える工業地の維持・保全



### 【交通ネットワーク】

- 苫小牧駅の駅前広場の機能再編・強化とともに、旧バスターミナル・周辺施設を含めた駅周辺の一体的な再整備の推進による、広域交通結節点の再整備
- ユニバーサルデザイン化の推進と多様な交通手段の乗り継ぎ利便性の向上
- 都市拠点と生活拠点を結ぶバス路線の充実
- 苫小牧駅から新千歳空港へのアクセス機能強化

都市骨格  
軸の強化

## 苫小牧の顔となる都市骨格軸の強化

### 【土地利用】

- 都市骨格軸である苫小牧白老通（国道 36 号）沿道における、背後の住環境を踏まえた、広域交通に対応する沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導

### 【交通ネットワーク】

- 苫小牧中央 I.C.（仮称）の整備推進
- 苫小牧の顔となる苫小牧白老通（国道 36 号）および支笏湖通（国道 276 号）における良好な街並みの形成
- 支笏湖通（国道 276 号）の機能強化による交通の円滑化
- 交通の分化促進（広域交通を都市骨格軸に・生活交通を生活軸に）

交流機  
能強化

## 苫小牧の魅力を高める交流機能の強化

### 【土地利用】

- 緑ヶ丘公園における、市民が自然や緑と触れ合う環境の保全

### 【交通ネットワーク】

- 観光・交流や広域医療を支える、南北連絡軸としての支笏湖通（国道 276 号）および港通（舟見通線）の機能強化（苫小牧中央 I.C.（仮称）、緑ヶ丘公園、苫小牧市立病院、市民文化公園、ぷらっとみなと市場の連携）
- 苫小牧駅と周辺の商業施設や公共施設、観光・交流施設を結ぶ南北循環バスなどによる都心回遊性の向上

### 【みどりと水辺空間】

- 市民文化公園（中央図書館、美術博物館）の魅力アップと拠点性の向上
- スポーツ・交流拠点として、緑ヶ丘公園におけるスポーツ・交流施設の集積・機能強化
- 緑ヶ丘公園や市民文化公園などにおける、官民連携による公園管理やパークマネジメントの促進
- 中心市街地から親水空間である「ふるさと海岸」をつなぐ円滑な動線の確保

### 【都市防災】

- 災害拠点病院（苫小牧市立病院・王子総合病院）における病院機能の充実・強化

## 災害対策の中枢部における防災・減災対策の実施

---

### 【土地利用】

- 土砂災害警戒区域に指定されている清水町の一部や高丘の丘陵部などにおける、災害リスクを未然に防止するための市街化区域の縮小

### 【交通ネットワーク／都市防災】

- 災害時における避難経路の確保や緊急搬送に向けて、南北連絡軸である支笏湖通（国道276号）および旭大通の機能強化
- 災害対策の中枢部である市役所をはじめ、公共施設が集積するエリアにおける地震・津波災害対策
- 官民連携による緊急時津波避難施設の確保



## 6 中央部東地域

### (1) 地域の現況と課題

#### ①地域の成り立ち

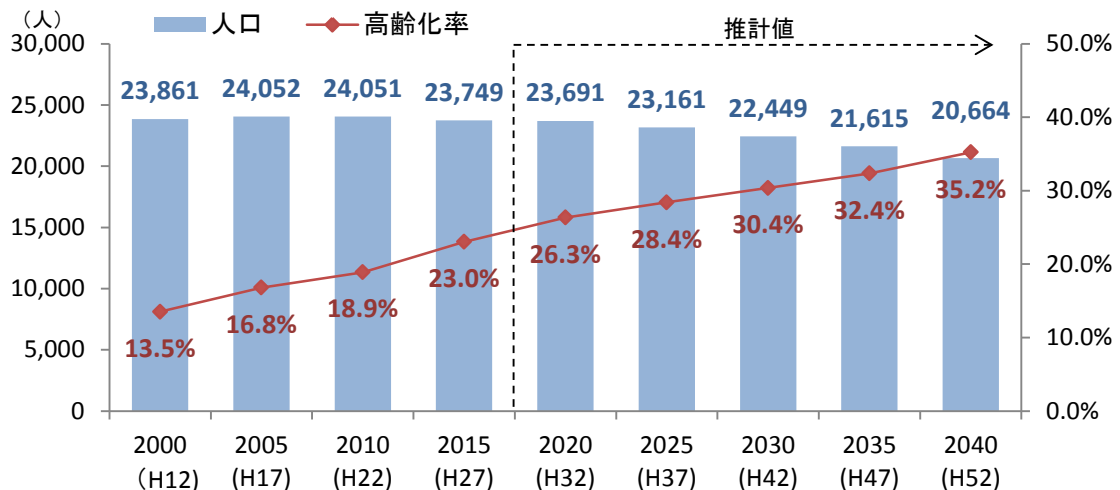
中央部東地域における住宅地の多くは、1960年代に土地区画整理事業によって整備されました。三光町は、1980年代以降に開発行為で整備され、比較的新しい団地となっています。

臨海部には、海からの玄関口であるフェリーターミナルやRoRo船のターミナルなどの物流機能のほか、海の駅ぷらっとみなと市場が立地しており、多くの観光客が来訪するエリアとなっています。

#### ②中央部東地域の現況

##### 【人口特性】

- 人口はほぼ横ばい傾向となっています。
- 高齢化率は23.0%と、全市(25.8%)よりも低くなっています。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

##### 【土地利用】

- 幹線道路沿いは商業地、臨海部は工業地、それ以外は住居系の土地利用がなされています。
- 老朽建物割合は61.5%と市全体(54.8%)より高くなっています。
- 未利用宅地の箇所数・面積は少ないですが、青空駐車場の箇所数は中央部中地域に次いで2番目に多くなっています。

##### 【都市機能の立地状況】

- 明野南通(国道36号)、明野北通(道道苫小牧環状線)、苫小牧白老通(双葉大通線)沿いに商業・業務施設が立地しています。
- 診療所や保育所、幼稚園、商業施設など、日常生活に必要な施設は概ね立地しています。
- 観光資源として海の駅ぷらっとみなと市場が立地しています。

《施設立地状況(H29.7時点)》

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
1	1	13	9	2	1	1	-	3	3	1	1	2	4

【交通】

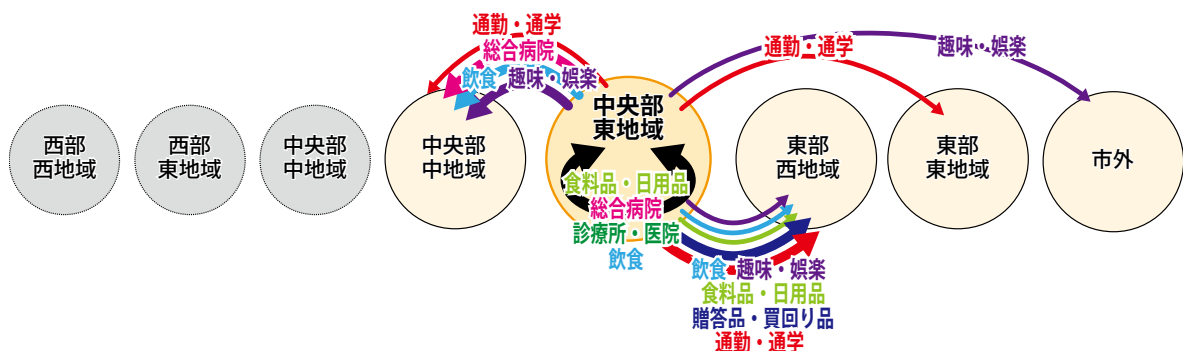
- 苫小牧中央 I.C. (仮称) の整備が進められています。(平成 32 年度完成予定)
- 苫小牧港の本港地区は、フェリーや RoRo 船のターミナルなどにより、北海道経済を支えるとともに、道央圏発展の牽引力として大きな役割を果たしています。
- 「苫小牧白老通(国道 36 号)×緑町二条通」の箇所で渋滞が発生しています。

【災害リスク】

- 海岸線から鉄道南側まで、津波浸水想定区域に含まれています。
- 苫小牧川の洪水により、鉄道北側の大半が浸水想定区域に含まれています。

【地域の生活行動・居住地選択理由(市民アンケート調査結果より)】

- 通勤・通学は、地域内よりも西部西地域、中央部中地域、東部東地域が多くなっています。
- 食料品・日用品の買い物は地域内と東部西地域、贈答品・買回り品の買い物は東部西地域が中心となっています。
- 診療所・医院への通院は地域内、総合病院への通院は中央部中地域が中心となっています。
- 飲食は中央部中地域と東部西地域に加え地域内、趣味・娯楽は地域内よりも中央部中地域と東部西地域に加え、市外も多くなっています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活利便性と生活環境の良さ(閑静など)が多くなっています。



### ③中央部東地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の中央部東地域における地域づくりの主な課題は、次のように整理できます。

- 生活利便機能が集積した生活拠点の形成
- 古くから形成された市街地における、今後の高齢化に備えた安心して暮らせる環境の実現と市街地の更新
- 子育てに便利で環境の良いゆとりある住環境の維持・向上
- 雇用や生活を支える港湾物流機能の強化
- 海の駅ぷらっとみなと市場やフェリーターミナルなどの資源を活用した交流人口の拡大
- 津波などの災害に強い港湾の形成

## (2)中央部東地域における地域づくりの目標と基本方針

### 【地域づくりの目標】

#### 中心市街地と海に近い特性を活かした、利便性の高い市街地の形成

海からの玄関口を有する地域として、市内外からの交流を育むエリアとして魅力を高めるとともに、中心市街地に近接した利便性を活かしながら、安全・安心に暮らすことができる市街地の実現を目指します。



### 【地域づくりの基本方針】

生活  
拠点

利便性の高い  
生活拠点の形成

都市骨格  
軸の強化

苫小牧の生活・産業を支える都市骨格軸の強化

市街地  
更新

利便性を活かした  
市街地更新の推進

みなとの  
物流・交流

みなとの物流機能および  
交流機能の強化

## (3)地域づくりの具体的内容

生活  
拠点

### 利便性の高い生活拠点の形成

#### 【土地利用】

- 苫小牧白老通（双葉大通線）と双葉三条通が交差するエリアを中心とした徒歩圏内に、日常生活を支える生活利便機能の集積を活かした拠点形成
  - 商業、医療・福祉、コミュニティ・交流機能など、日常生活を支える生活利便機能のさらなる集積
  - サービス付き高齢者向け住宅や子育て世帯向け住宅などの整備
  - 地域住民が立ち寄り、集まりやすいオープンスペース
- 生活軸を補完し、周辺の日常生活を支える地域軸の形成

#### 【交通ネットワーク】

- 生活拠点におけるバリアフリー化の推進
- 東西の自動車交通の混雑緩和に資する生活軸における自転車ネットワークの形成

#### 【都市防災】

- 市民との協働による日の出公園の防災機能強化・充実

都市骨格軸の強化

## 苫小牧の生活・産業を支える都市骨格軸の強化

### 【土地利用】

- 都市骨格軸である支笏湖通（国道 276 号）・明野北通（道道苫小牧環状線）沿道における、背後の住環境を踏まえた、広域交通に対応する沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導

### 【交通ネットワーク】

- 苫小牧中央 I.C.（仮称）の整備推進
- 苫小牧の生活・産業を支える苫小牧白老通（国道 36 号）および支笏湖通（国道 276 号）の機能強化による交通の円滑化と良好な街並みの形成
- 交通の分化促進（広域交通を都市骨格軸に・生活交通を生活軸に・産業交通を産業軸に）

市街地更新

## 利便性を活かした市街地更新の推進

### 【土地利用】

- 生活軸である苫小牧白老通（双葉大通線）および明野南通、産業軸である苫小牧白老通（国道 36 号）沿道における、背後の住環境に配慮した土地利用の転換と、適切な規模の生活利便機能などの誘導
- 拠点周辺や都市軸の背後地における、住居系の土地利用への転換・純化による住環境の保全
- 既に形成された住環境を維持しながら、市街地更新に向けた、危険な老朽家屋の除却や住宅リフォームの推進、中古不動産の流通促進などによる住宅ストックの有効活用

みなとの物流・交流

## みなとの物流機能および交流機能の強化

### 【土地利用】

- 苫小牧の雇用・産業を支える、港湾物流機能の強化
- 臨海部に接する産業軸である臨海北通（道道上厚真苫小牧線）沿道における、流通・業務機能や適切な規模の沿道型サービス施設の立地誘導
- 海の駅ぷらっとみなと市場と周辺に人を呼び込む魅力向上と漁港区の機能強化
- フェリータミナルにおける、北海道の顔となる海の玄関口の形成

### 【交通ネットワーク】

- 産業や観光、広域医療等を支える、苫小牧中央 I.C.（仮称）から苫小牧港（西港区）までのアクセス強化及び主要施設（緑ヶ丘公園・苫小牧市立病院・市民文化公園・ぷらっとみなと市場）の連携
- 南北連絡軸である苫小牧白老通（国道 36 号）および支笏湖通（国道 276 号）の機能強化による災害時の安全性向上



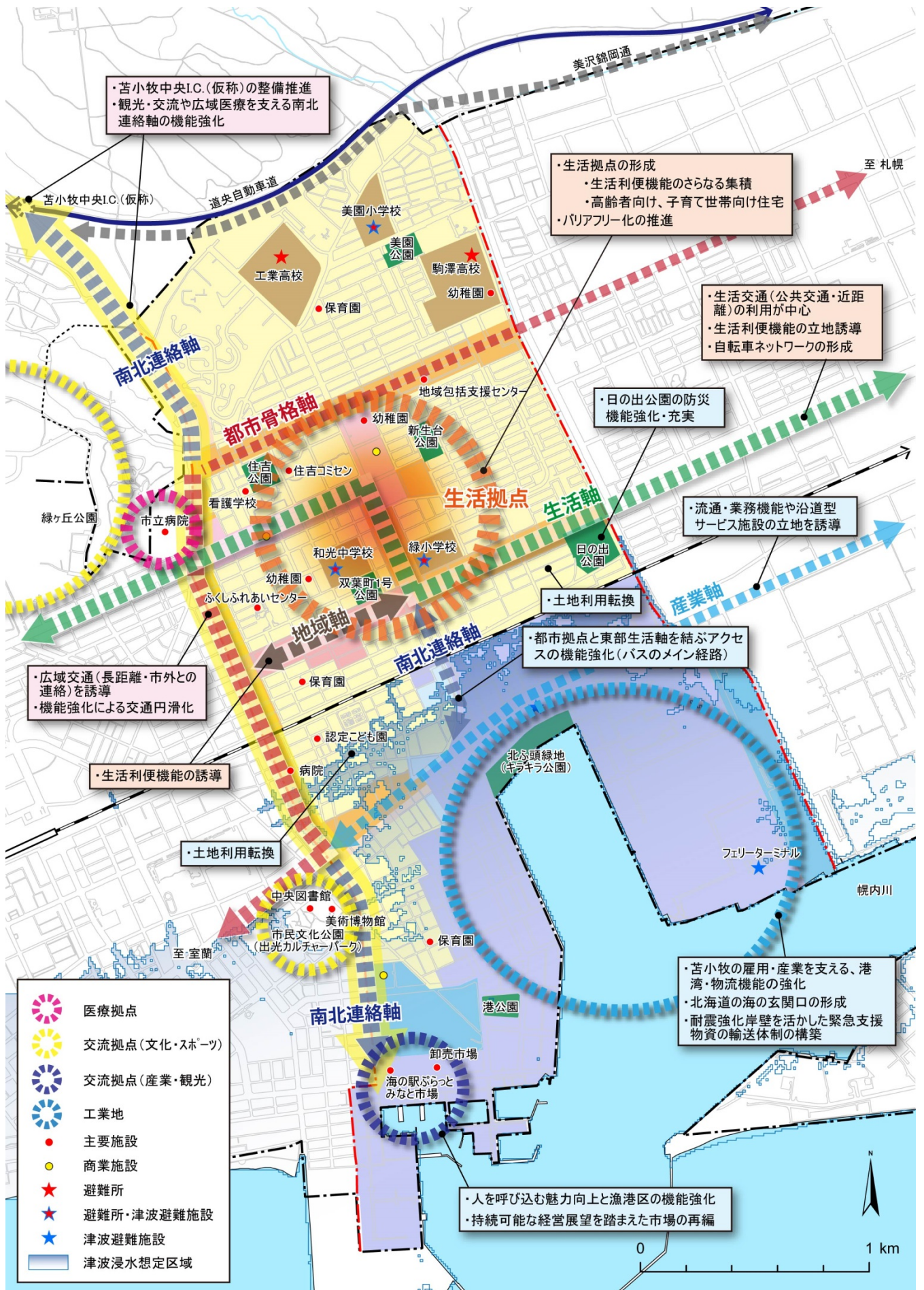
**【みどりと水辺空間】**

- 北ふ頭緑地（キラキラ公園）などにおける、官民が連携した公園管理やパークマネジメントの促進

**【その他の施設】**

- 卸売市場における、施設の老朽化や今後の経営展望を踏まえた市場全体の再編

地域別構想



# 7 東部西地域

## (1) 地域の現況と課題

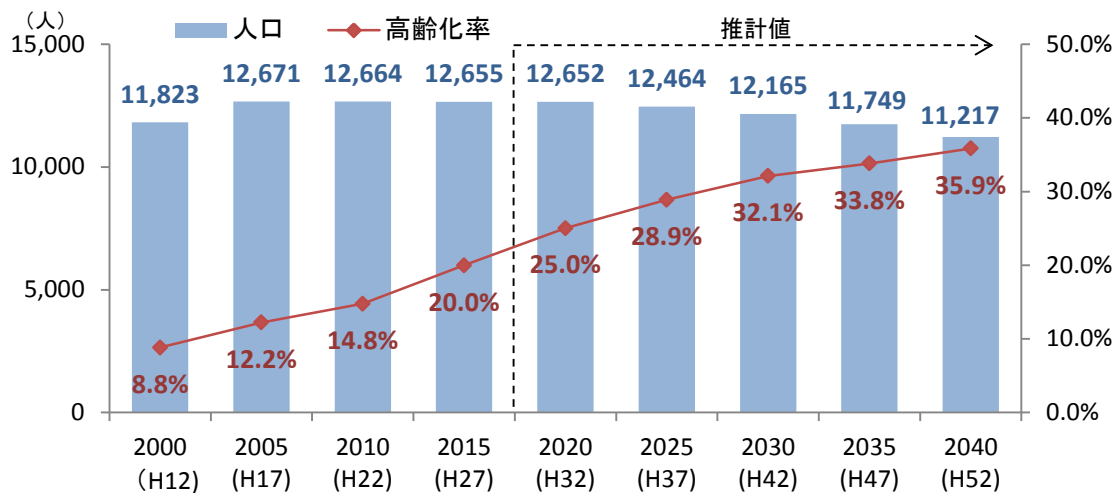
### ①地域の成り立ち

東部西地域においては、1960年代に苫小牧港（西港区）の建設が進められ、明野北通（道道苫小牧環状線）より北側は主に工業団地として造成・分譲されましたが、現在では西側の一部に住宅市街地が形成されています。明野北通（道道苫小牧環状線）より南側は、1980年代から土地区画整理事業によって整備され、明野南通（国道36号）にかけては工業団地と住宅市街地が、また臨海部には、港湾による物流優位性から電力、石油精製、非鉄金属、配合飼料など多種多様な企業が立地し、一大臨海工業地帯が形成されています。

### ②東部西地域の現況

#### 【人口特性】

- 人口は微減傾向で、減少割合はほぼ横ばいとなっています。
- 高齢化率は20.0%と、全市（25.8%）よりも低くなっています。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

#### 【土地利用】

- 鉄道北側は、東西両端が住宅地となっており、その間は工業施設や業務施設が立地しています。
- 鉄道南側は、港湾関連施設や工業施設に特化した土地利用となっています。
- 老朽建物割合は50.8%と、他の地域に比べ2番目に低くなっています。
- 未利用宅地の箇所数は少ないものの、1箇所あたりの面積が最も大きくなっています。

【都市機能の立地状況】

- 大型商業施設が最も多く立地する地域で、明野南通（国道 36 号）沿いを中心に立地していますが、他の地域と比較すると、教育施設や交流・集会施設などの立地は多くない状況です。
- このほか、業務施設、工業施設が多く立地しています。

＜施設立地状況（H29.7 時点）＞

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
-	1	5	5	1	1	1	-	1	-	1	-	-	15

【交通】

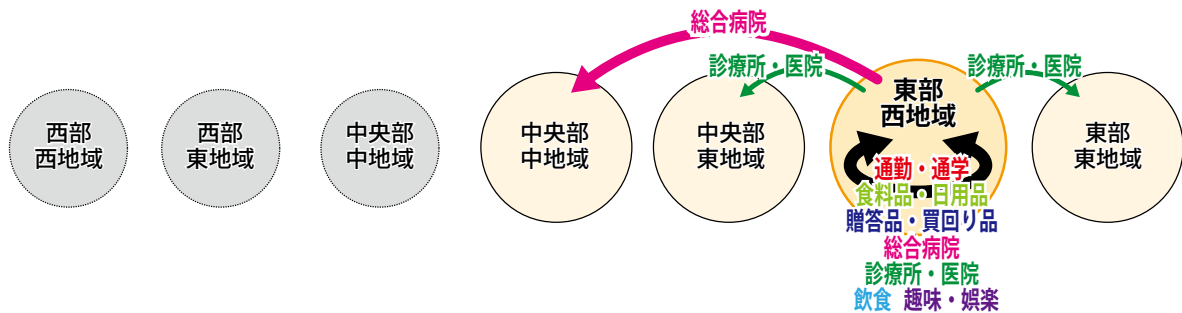
- 「明野南通（国道 36 号）×明野西一条通」「苫小牧港通（国道 36 号）×明野南通（道道苫小牧環状線）」の箇所で渋滞が発生しています。

【災害リスク】

- 臨海部の一部が津波浸水想定区域に含まれています。

【地域の生活行動・居住地選択理由（市民アンケート調査結果より）】

- 通勤・通学、買い物、飲食、趣味・娯楽は、地域内が最も多くなっています。
- 診療所・医院への通院は地域内に加え、中央部東地域、東部東地域が多く、総合病院への通院は、中央部中地域に加え地域内も多くなっています。
- 特に、贈答品・買回品の買い物は、他の地域からの移動先として多くなっています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活利便性と職場（学校）の近さが多くなっています。



### ③ 東部西地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の東部西地域における地域づくりの主な課題は、次のように整理できます。

- 産業集積地と住宅市街地の用途分化による、良好な住宅地と工業地の維持・保全
- 隣接する生活拠点へのアクセス強化
- 明野南通（道道苫小牧環状線）沿道の街並みへの配慮、および土地利用コントロールによる沿道型商業施設の集積
- 港湾物流機能の強化に向けた、鉄道の南北をつなぐ道路ネットワークの強化

## (2) 東部西地域における地域づくりの目標と基本方針

【地域づくりの目標】

### 暮らしと産業が両立した良好な生活・生産環境の形成

住・商・工の土地利用を明確に区分しながら、生活交通や産業交通、広域交通の分離を図り、便利で良好な住環境の保全と、競争力のある工業地の形成を目指します。



【地域づくりの基本方針】



## (3) 地域づくりの具体的内容

### 骨太生活軸 沿道型商業が集積した生活軸の形成

#### 【土地利用】

- 鉄道駅がなく、都市活動に公共交通や自家用車が不可欠である地域特性を踏まえた、生活軸である明野南通（国道36号）沿道における沿道型商業地の形成
- 生活軸沿道商業地と背後の工業地の土地利用分化による、沿道商業活動の維持・保全

#### 【交通ネットワーク】

- 東西の自動車交通の混雑緩和に資する、生活軸における自転車ネットワークの充実
- 街並み景観に配慮した生活軸の形成
- 交通の分化促進（広域交通を都市骨格軸に・生活交通を生活軸に・産業交通を産業軸に）

拠点  
アクセス

## 生活拠点へのアクセス向上

### 【交通ネットワーク】

- 隣接する生活拠点（中央部東地域、東部東地域）へのアクセス向上に向けた公共交通の維持・充実

機能  
分化

## 機能分化による良好な住環境の保全

### 【土地利用】

- 都市骨格軸である明野北通（道道苫小牧環状線）沿道における、背後の住環境を踏まえた、広域交通に対応する沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導
- 都市骨格軸および生活軸沿道における、身近な商業、医療・福祉など、背後の住環境に配慮した生活利便機能の誘導
- 都市軸の背後地における、住居系の土地利用への転換・純化による住環境の保全
- 都市軸背後の工業地における、土地利用分化による産業活動の利便増進
- 住宅地と工業地との境界における、緩衝帯や適切な距離を保つことによる良好な住環境・業務利便性の保全

### 【交通ネットワーク】

- 住・商・工の土地利用純化を促進させ、生活交通と産業交通の分離による交通安全性の向上

### 【みどりと水辺空間】

- 明野川における、河川敷の緑化や散策路の整備など、親水空間と歩行者動線の形成

産業

## 苫小牧の活力を生み出す産業集積地の形成

### 【土地利用】

- 世界に開けた港湾、全国への鉄道網、道内への道路ネットワークを有する利点を活かした、国際競争力の強化に向けた産業集積
- 港湾の后背地や工業地における、倉庫やヤードなどの物流関連施設の立地誘導
- 港湾の一層の強化に資する、臨海部での港湾用地の利用促進

### 【交通ネットワーク】

- （仮称）植苗新千歳空港通による新千歳空港へのアクセス強化
- 港湾物流機能の強化に向けた、鉄道南北のアクセス向上
- 工業景観に配慮した産業軸の形成

### 【都市防災】

- 産業集積エリアにおける地震や津波などの災害に備えた BCP の作成、避難訓練の実施など、災害に強い臨海部の形成





# 8 東部東地域

## (1) 地域の現況と課題

### ①地域の成り立ち

東部東地域の沼ノ端地区は、札幌や新千歳空港に近く、鉄道駅も立地しており、また苫小牧の産業が集積する港湾からも近い地域であるため、市内の中でも交通利便性の高い地域となっています。

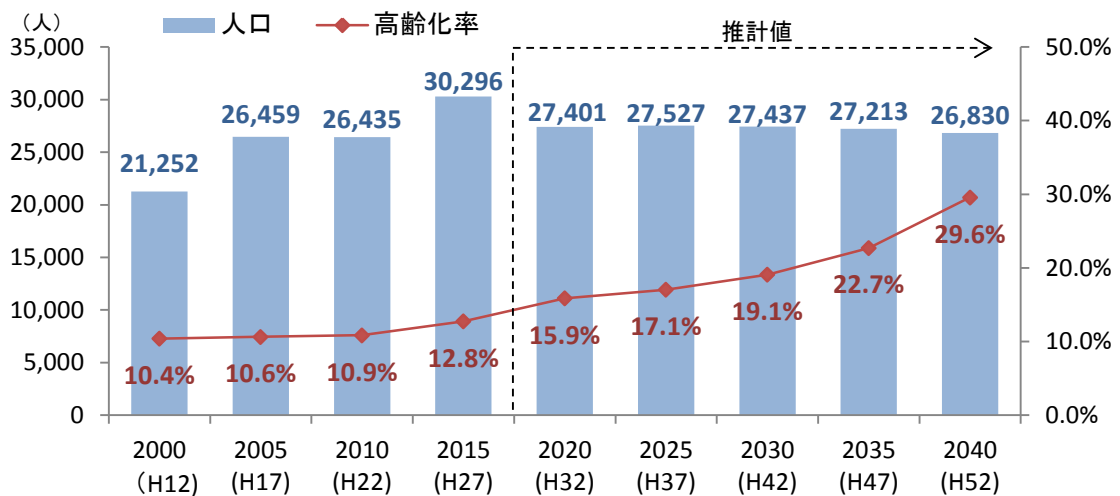
1980年代から土地区画整理事業によって、住宅地、流通・軽工業地が整備され人口流入が進んでおり、市内で唯一人口が増加している地域となっています。

勇払地区は、本市の起源となった地区であり、工業集積地となっているとともに、それらを支える市街地も形成されています。

### ②東部東地域の現況

#### 【人口特性】

- 市内で唯一、人口が増加傾向にあります。
- 高齢化率は12.8%と、全市(25.8%)の中で最も低くなっています。



※国勢調査(2010年)結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年)」における各種比率を用いて推計

#### 【土地利用】

- 沼ノ端地区では、沼ノ端駅周辺と明野南通沿いに商業施設や公共施設が立地し、その他は住居系の土地利用となっています。勇払地区は、住居と軽工業が混在した土地利用がなされています。
- 老朽建物割合は31.9%と最も低くなっています。
- 未利用宅地の箇所数は2番目に多く、1箇所あたりの面積も2番目に大きくなっています。

【都市機能の立地状況】

- 沼ノ端駅周辺に教育施設、公共施設、商業施設が立地しており、勇払地区に、教育施設や公共施設が立地しています。
- 観光資源として、ウトナイ湖とその周辺の道の駅やウトナイ湖野生鳥獣保護センターのほか、勇払地区に立地する勇武津資料館、勇払開拓史跡公園、勇払マリーナなどがあります。
- 地域内に病院は立地していませんが、診療所が西部東地域に次いで多く立地しており、保育所や幼稚園も他の地域と比べ多くなっています。

≪施設立地状況(H29.7時点)≫

行政施設	病院	診療所	歯科診療所	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校・大学	保育所	幼稚園	認定子ども園	文化・交流施設	公民館・集会施設	主な商業施設
2	-	15	11	4	3	-	-	4	3	1	3	3	4

【交通】

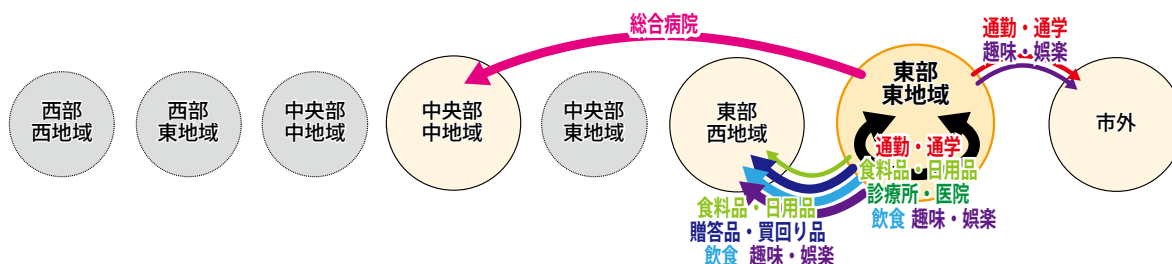
- 沼ノ端駅（一部の特急停車）が立地しています。
- 道央自動車道の苫小牧東I.C.や日高自動車道の沼ノ端西および東I.C.が近接しています。
- 「臨海北通（道道上厚真苫小牧線）×臨海東通（道道苫小牧環状線）」で渋滞が発生しています。

【災害リスク】

- 沿岸部から沼ノ端地区の鉄道南側まで、津波浸水想定区域に含まれています。
- 勇払川・安平川の洪水により、勇払地区の大半と沼ノ端地区の東側の住宅地の一部が浸水想定区域に含まれています。

【地域の生活行動・居住地選択理由（市民アンケート調査結果より）】

- 通勤・通学は、地域内に加え市外が多くなっています。
- 食料品・日用品の買い物は地域内に加え西部西地域、贈答品・買回り品の買い物は西部東地域が多くなっています。
- 診療所・医院への通院は地域内、総合病院への通院は中央部中地域が中心となっています。
- 飲食は西部西地域と地域内、趣味・娯楽は西部西地域と地域内に加え、市外が多くなっています。趣味・娯楽では市外が地域内を上回っています。
- 現在の居住地を選んだ理由としては、生活利便性と職場（学校）の近さ、生活環境の良さ（閑静など）が多くなっています。



### ③ 東部東地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の東部東地域における地域づくりの主な課題は、次のように整理できます。

- 子育て世帯にとって暮らしやすく、閑静で良好な住環境の保全に向けた土地利用の純化とコントロール
- 日常生活を支える生活利便機能や、近隣の産業・雇用を支える都市機能が集積した利便性の高い生活拠点の形成
- 勇払地区における移動手段の確保
- 室蘭本線南側の市街地や勇払地区、臨海部における、災害時の避難経路・避難施設などの確保と防災対策の実施

## (2) 東部東地域における地域づくりの目標と基本方針

### 【地域づくりの目標】

#### 交通利便性を活かし都市の活力を生み出す住みよい地域づくり

札幌市や新千歳空港、港湾に近接している、優れた交通利便性を活かし、日常生活や産業・雇用を支える複合的な生活拠点として、新たな人口流入や産業集積を進め、都市の活力を生み出す住みよい地域づくりを目指します。



### 【地域づくりの基本方針】



都市機能を併せ持った  
複合型生活拠点の形成



機能分化による  
良好な住環境の形成



豊かな自然環境の保全と  
観光交流拠点の形成



苫小牧の活力を生み出す  
産業集積地の形成

## (3) 地域づくりの具体的内容

複合型  
生活拠点

### 都市機能を併せ持った複合型生活拠点の形成

#### 【土地利用】

- 沼ノ端駅周辺を中心とした徒歩圏における、日常生活や産業・雇用を支える複合的な生活利便機能が集積した生活拠点の形成
  - 商業、医療・福祉、教育、子育て支援、コミュニティ・交流などの生活利便機能の集積
  - 商業・業務施設、宿泊施設など、近隣の産業や雇用を支える都市機能の集積と高度化
  - 子育て支援機能と地域交流機能を導入した複合施設整備
  - 公共交通（鉄道・バスなど）の乗り換え拠点の整備
  - 市営住宅の計画的な維持・更新
  - サービス付き高齢者向け住宅や若者向けの民間賃貸住宅の整備
  - 地域住民が立ち寄り、集まりやすいオープンスペースの整備

### 【交通ネットワーク】

- 沼ノ端駅周辺における、広域交通結節機能を高める都市機能の誘導
- 生活拠点におけるバリアフリー化の推進
- 学校や公園などの主要施設、沼ノ端駅などをつなぐ歩行空間における、花や緑のまちづくりの実践など、適切な維持管理・活用の推進

機能  
分化

## 機能分化による良好な住環境の保全

### 【土地利用】

- 都市骨格軸である明野北通および美沢錦岡通（国道36号）沿道における、市街地端部まで連続した広域交通に対応する適切な規模の沿道型サービス施設、流通・業務施設などの立地誘導
- 生活軸である明野南通沿道における、身近な商業、医療・福祉など、背後の住環境に配慮した生活利便機能の誘導
- 産業軸である臨海北通（道道上厚真苫小牧線）や南北連絡軸沿道における、適切な規模の業務・流通関連施設の立地誘導
- 鉄南地域の産業軸沿道における、背後の住宅地との緩衝帯としての適正規模の沿道型サービス施設の立地誘導および土地利用純化の促進
- 都市軸間を南北に連絡する臨海東通における、生活軸を補完し、周辺の日常生活を支える地域軸の形成および土地利用純化の促進
- 今後のニーズを見極め、住・商・工の混在を未然に防ぐ土地利用の転換・純化の促進による、相互に適切な距離を保った良好な住環境、業務利便性の保全
- 長期的な未利用地における、将来の土地利用構想を勘案した市街化区域の縮小や、区域区分界の明確化

### 【交通ネットワーク】

- 東西の自動車交通の混雑緩和に資する生活軸における自転車ネットワークの拡充
- 交通の分化促進（広域交通を都市骨格軸に・生活交通を生活軸に・産業交通を産業軸に）

### 【みどりと水辺空間】

- 「そよ風と遊ぶ道」や公園など、地域住民やコミュニティによる緑豊かなまちづくりの実践
- 明野川などの河川における、河川敷の緑化や散策路の整備など、親水空間と歩行者動線の形成

環境・  
交流

## 豊かな自然環境と観光交流拠点の形成

### 【みどりと水辺空間】

- 勇払マリーナにおける多様な交流を生むマリンレジャーの拠点形成
- ウトナイ湖などにおける貴重で豊かな自然環境の保全・再生

- 道の駅「ウトナイ湖」における情報発信や地場産品の開発・販売促進、ウトナイ湖の自然景観、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター・サンクチュアリネイチャーセンターなどの活用による、魅力ある観光交流拠点の形成

産業

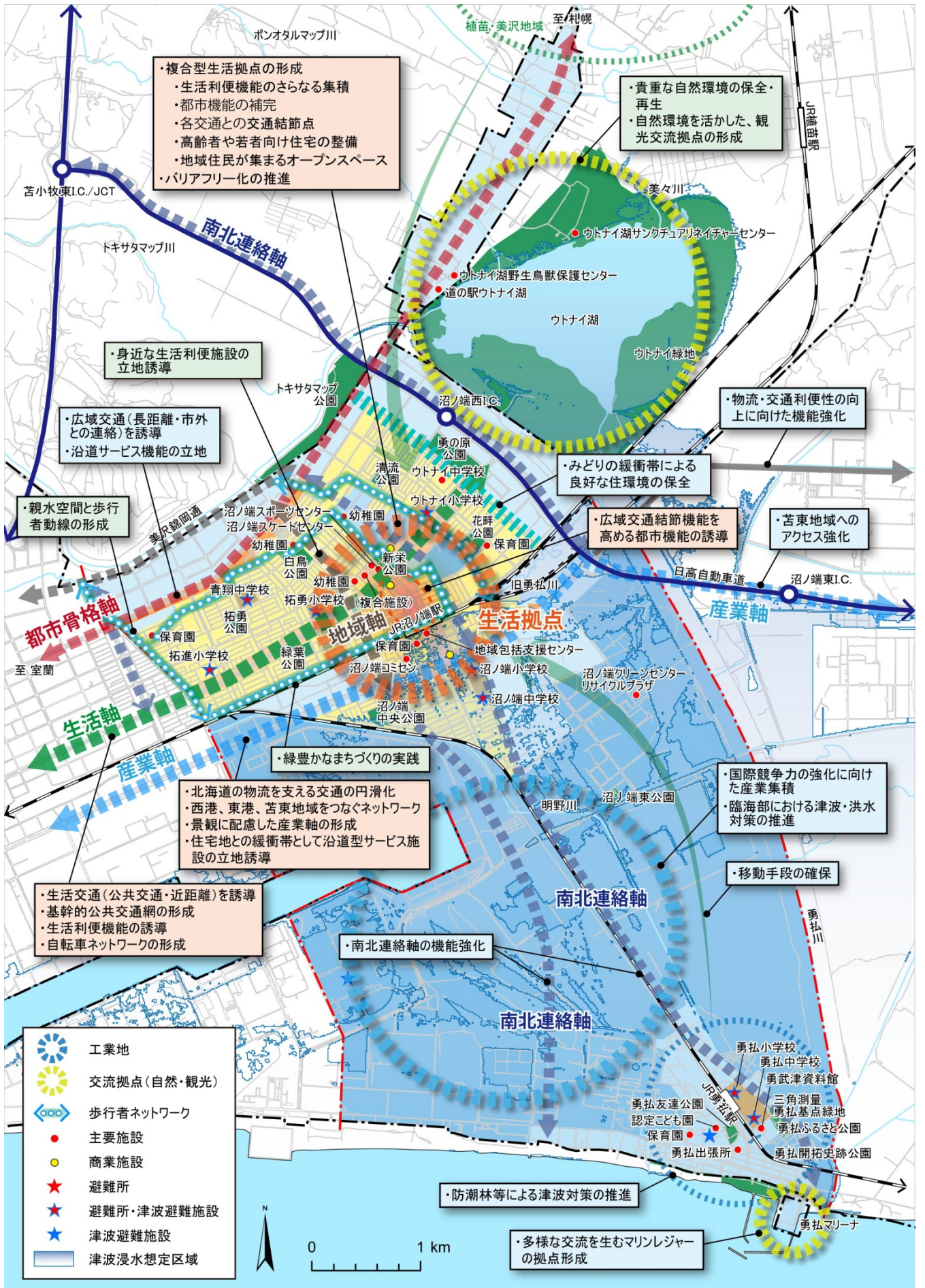
## 苫小牧の活力を生み出す産業集積地の形成

### 【土地利用】

- 世界に開けた港湾、全国への鉄道網、道内への道路ネットワークを有する利点を活かした、国際競争力の強化に向けた産業集積

### 【交通ネットワーク／都市防災】

- 勇払地区における日常生活の移動手段の確保
- 南北連絡軸である臨海東通および勇払沼ノ端通（道道苫小牧環状線）の機能強化
- 物流・交通利便性の向上に向けた日高自動車道や苫小牧厚真通（柏原開拓道 1 号線）の機能強化
- 勇払地区沿岸部における防潮林など、津波・洪水対策の推進
- 臨海東通をはじめとする南北連絡軸の強化など、災害時における緊急避難や緊急輸送を支える道路ネットワークの構築



## 9 苫東地域

### (1) 地域の現況と課題

#### ①地域の成り立ち

苫東地域における開発は、北海道総合開発計画において重要な施策として位置づけられ、1995年（平成7年）に「苫小牧東部開発新計画」が策定されました。1997年（平成9年）には「苫小牧東部開発新計画の進め方について」が策定され、1999年（平成11年）に株式会社苫東が設立、2008年（平成20年）には「進め方」の第2期が策定され、関係機関により各施策が実施されている状況です。

2017年度（平成29年度）現在、苫東地域に立地している企業は、全部で103社あり、そのうち操業している企業（年度内の操業予定も含む）は78社となっています。

#### ②苫東地域の現況

##### 【土地利用／都市機能の立地状況】

- 自動車関連産業、製造業、食関連産業、エネルギー関連産業、物流関連産業、リサイクル関連産業などの工業施設が立地しています。
- 生活に必要な機能は立地していない状況です。
- 弁天沼やその周辺においては、貴重な樹林帯や湖沼、生態系を有する豊かな自然環境が形成されています。

##### 【交通】

- 地域内には、日高自動車道の沼ノ端東I.C.と苫東中央I.C.があり、道央自動車道の苫小牧東I.C.と連絡しています。
- 苫小牧港（東港区）を有し、周辺には物流・エネルギー・リサイクル関連の施設が多く立地しています。

##### 【災害リスク】

- 日高自動車道以南の地域の大半が津波浸水想定区域に含まれています。

#### ③苫東地域の主な課題

以上を踏まえ、今後の苫東地域における地域づくりの主な課題は、次のように整理できます。

- 苫小牧の国際競争力を高めるさらなる企業立地の推進
- 貴重な自然環境や生態系の保全と活用
- 新千歳空港、苫小牧港（西港区、東港区）への交通ネットワークの強化
- 雇用や産業を支える港湾物流機能の強化



## (2) 苫東地域における地域づくりの目標と基本方針

【地域づくりの目標】

### 自然環境に配慮し、地域の強みを活かした産業の更なる集積

新千歳空港、苫小牧港、鉄道や高速道路などが整備されており、交通利便性が高く、また広大な土地の活用が可能であることから、自然環境に配慮しながら、苫東地域の強みを活かし、更なる産業集積を図ります。



【地域づくりの基本方針】

産業

空港・港湾・高速道路に  
近接する強みを活かした  
更なる産業集積

環境

豊かな自然環境の保全

## (3) 地域づくりの具体的内容

産業

### 空港・港湾・高速道路に近接する強みを活かした更なる産業集積

#### 【土地利用】

- 苫東地域での雇用創出に寄与し、立地企業の生産活動を支える港湾物流機能の強化や、港湾関連施設の整備促進
- 自動車関連産業、リサイクル関連産業などの既存分野の集積と、関連産業の誘導
- 自然エネルギー、水素関連産業の誘致、実証・実験フィールドとしての活用など、地域の特性を活かした新たな産業の展開や研究開発
- 北海道における物流の拠点性を活かした、食品物流の高度化、農産物などの出荷平準化、災害リスク分散などを念頭に置いた食産業に係る物流、加工施設の集積
- 北極海航路へのアジアの玄関口としての役割を確立する、港湾関連施設の整備促進
- 日本の石油備蓄を支える基地の形成と安定的な運用

#### 【交通ネットワーク】

- 物流・交通利便性の向上に向けた日高自動車道や苫小牧厚真通の機能強化
- 企業立地や物流動線の円滑化に向けた未整備道路の整備促進
- 苫小牧港（東港区）におけるコンテナターミナルの機能拡充・強化
- 新千歳空港、苫小牧港（西港区、東港区）を結ぶ交通ネットワークの強化

## 豊かな自然環境の保全

---

### 【土地利用／みどりと水辺空間】

- 弁天沼など貴重な自然が残された樹林地や湖沼群などの保全

### 【都市防災】

- 安平川下流域における河道内調整地の整備による水害対策の推進

